

Q 診断には、何か判断基準がありますか？

A はい、漢方独自の「証^{しょう}」で判断します

漢方では、身体の中をめぐる**気**（エネルギー）・**血**（血液）・**水**（体液）のバランスが乱れたときに、身体はどこかに症状が現れると考えます。

そして、患者さん一人ひとりのバランスを、「証」という漢方独自のものさしで判断します。証は大きく二つに分けられます。

身体が冷えているか、熱をもっているかを表す「寒熱」、そして体力や症状の現れ方を示す「虚実」です。診断は、この寒熱と虚実から、さらに細かく4つのタイプに分けられます。

寒証タイプ

- 脈が遅い
- 低血圧
- 寒がり
- あまり汗をかかない
- 手足が冷える
- 顔色が青白い
- 下痢ぎみ など



熱証タイプ

- 脈が速い
- 高血圧
- 暑がり
- よく汗をかく
- 顔が赤い
- 口が渇く
- 便秘 など



実証タイプ

- 血行が良い
- 声大きい
- 疲れにくい
- 食欲旺盛
- 筋肉質



虚証タイプ

- 顔色が悪い
- 声が小さい
- 疲れやすい
- 肌がカサカサ
- やせ型 または 水太り
- 寒がり で低血圧



Q 副作用に注意する必要はありますか？

A はい、あります

漢方薬も薬ですから、副作用があります。薬を飲んで体調に変化があったら、すぐに医師や薬剤師に相談してください。また、以下のことにも十分気をつけて使うようにしましょう。

自己判断で複数の種類を飲まない

漢方薬は何種類かの生薬を特定の比率で合わせて作られています。たとえばAという漢方薬とBという漢方薬を混ぜて飲むと、まったく別の薬になってしまいます。副作用が出やすくなったり、思わぬ作用が現れる恐れもあるため、自己判断で複数の種類を飲むのはやめましょう。

人にあげたり、もらったりしない

同じ病気、似た症状であっても、体質や身体の状態によって適した漢方薬は違います。自分に処方された薬を人にあげたり、ほかの人からもらったりするのは、やめましょう。

詳細については、神奈川県ホームページ等でお知らせしています。

神奈川県 漢方薬の基礎知識

検索

はじめての漢方eラーニング

検索

「かながわ未病改善宣言」
イメージキャラクター



神奈川県健康医療局生活衛生部薬務課
電話 045-210-4967

知っていますか？ 漢方のQ&A

漢方薬の、いろいろな疑問にお答えします



漢方薬のホントって？

Q 漢方薬は、どんなお薬ですか？

A 二種類以上の生薬しょうやくでできたものです

漢方薬は、原則として2種類以上の生薬*を決められた分量で組合わせたものです。

有効成分の働きにより、複数の症状や慢性的な病気などに効き目を現します。

漢方薬には多くの種類があり、日本では294処方（一般用漢方製剤）が承認されています。

医療用では、148処方が承認されています。

※生薬とは、植物、動物、鉱物などのすべて、または一部を乾燥させるなど加工して、医薬品として用いるものです。

Q 漢方は中国のものでしょうか？

A いいえ、日本独自のものです

漢方はもともと、古代中国の医学として、経験に基づいて体系化されたものです。

日本には5～6世紀頃伝わり、日本の風土や日本人の体質に合わせて独自に発展。17世紀頃さらに発展を遂げ、現代に受け継がれています。

漢方という名称は、西洋医学として伝来した「蘭方」と区別するためにつけられました。

中国の伝統的な医学は「中医学」といい、漢方とは異なります。



漢方薬の飲み方や効き目は？

Q 漢方薬は、煎じて飲むだけですか？

A いいえ、さまざまなタイプがあります

煎じて飲むのは、伝統的な漢方薬です。最近では煎じたものを濃縮し、顆粒状にしたり、錠剤にしたものが広く用いられています。

Q 漢方薬にはどんな効き目がありますか？

A 身体本来の機能を、じんわり高めま

漢方薬には、身体の免疫力などを回復させる働きがあります。

生活習慣病などの慢性疾患を、じっくりと体質改善して治します。

また、風邪や胃腸症状などの急性の症状や検査や画像診断では異常が見られないが自覚症状がある場合や、体質が関係した病気にも向いています。

漢方薬が使用される症状等の例

手術後の体力低下

ストレスや心の病気
(不眠や神経症など)

胃腸障害

女性の病気
(月経不順や更年期障害など)

漢方薬を使うときの注意点は？

Q 漢方薬を使いたい場合は？

A 処方箋が必要なものと市販薬があります

漢方薬は、飲む方の体質や現在の身体の状態、症状の現れ方などから総合的に判断されます。身体に適したお薬を投薬してもらうためには、医師や薬剤師に、できるだけ詳しく症状を伝えることが大切です。

Q 生活習慣なども伝えるべきですか？

A はい、いろいろなことをお知らせください

漢方では、患者さんの訴えを大切にします。症状に関係ないようなことでも大事な情報になることがあります。

自覚症状のほか、生活習慣や仕事、家庭の様子、食べ物の好き嫌いなどをなるべく詳しくお話しください。

